

# 校友会誌

第58号



## 掲載内容

校友会会長 あいさつ  
学校長 あいさつ  
卒業生からの寄稿  
教員の学科紹介  
校友会事業経過報告  
特筆すべき学生  
ちょっと聞いてちょ自慢話  
母校の主な出来事  
部活動と校友会  
産業技術後援会  
校友会支部から



夜はイルミネーション  
見る人の心を癒してくれます

2017年3月9日発行  
名古屋工学院専門学校校友会  
名古屋市熱田区神宮四丁目7番21号  
<http://koyukai.denpa.ac.jp/>

## 『進化する校友会』

会長 池戸 博行



校友会会員の皆様におかれましては、益々のご健勝とご活躍のこととお喜び申し上げます。

平成28年6月の役員会において、校友会第32代会長の3期目に再任されました。

引き続き拝命したことに、役職の重要性から一層身の引き締まる思いです。

昨年は、熊本での地震、伊勢志摩サミット、リオデジャネイロ五輪での日本の活躍など大きなニュースがありました。

校友会活動を振り返ってみると、新しく発足した静岡支部と長野支部は順調に活動を行ってきま

した。

平成27年4月より新会則が施行され、従来の校友会支部に加えて、卒業生の各種同窓会も校友会組織に加入できるようになりました。

現在、アマチュア無線クラブOB同窓会、学生会同窓会、電波組1981、空手道部OB同窓会ができています。

校友会の最高議決機関である役員会に同窓会の代表者も参加して頂くことになり、多くの卒業生の方のご意見が反映されることを期待しております。校友会役員も募集しておりますので、卒業生の方のご参加をお待ちしております。

パソコンだけでなく、スマートフォンにも対応させた校友会のホームページから情報発信を強化して、卒業生の皆様との絆をより深めています。

さて、校友会が継続・発展をする為に今、経費の問題があります。

校友会の事業計画、事業報告は年度毎に校友会誌「かもめ」や校友会ホームページに掲載しておりますが、校友会活動が活発になればなるほど経費がかかります。

現在、校友会費は4000円ですが、校友会費の値上げの可否の検討が必要となりました。そこで、常任役員会の中に専任担当を置き検討してまいります。

今年の干支は「丁酉」です。酉は取り込むに繋がり気運もお客も取り込むと言う意味で商売繁盛や物事が頂点まで極まった状態の年と言われています。校友会においても改革の成果がでる年にしたいと思えます。

これからも皆様のご意見を伺いながら、校友会活動の更なる活性化のために頑張りたいと思えますので、今後ともご協力とご支援をお願い申し上げます。

## 『より質の高い教育を目指して』

校長 坂田 和義



平成28年4月から

小川明治前校長の後を引き継ぎ、学校長に就任いたしました。前年度までと同様、卒業生の皆様方のご支援、ご鞭撻をいただきますよう、よろしくお願いたします。

さて、「職業教育」をキーワードとする専修学校が学校教育法に定義され、制度化されて今年で40周年になりました。この間、専門学校は大学・短大と並ぶ高等教育機関として著しい発展を遂げています。制度の面で言えば、平成6年の専門士の称号付与から始まり、大学への編入学、4年生課程の修了者に対する高度専門士の称号付与、なら

びに大学院入学資格が与えられるなど、高等教育機関としての地位を確立してきました。また、平成26年4月からは、一定の要件を満たす専門学校に対して「職業実践専門課程」が文部科学省によって認定され、教育水準の高さを計る指標が作られています。

国の施策においては、このように制度面での環境が整えられる一方で、専門学校に対して、より高いレベルの教育の質の整備を求められることが多くなっており、職業教育に対する社会の期待が益々大きくなっていることを感じています。

本校においては、こうした事態をいち早く想定し、6年前から「教育の質の維持・向上を図る」ということを学校の最大の目標として各部署において対策を図っており、大きく次の4つの視点からその整備に取り組んでいます。

①教育を行う「教員の質」

②カリキュラムやシラバス等の「教育内容の質」  
③教育目標の達成度を計る「教育成果の質」  
④教育設備や学習環境等の「教育環境の質」

皆様もご存知の通り、少子高齢化が進む中で大学全入時代が訪れ、さらに2018年問題と言われるように、数年後には一段と少子化が加速する時代に突入するなど、専門学校を取り巻く環境は厳しさを増しています。

こうした状況下にあっても、卒業生の皆様にとって、いつまでも誇りに思っていただけの学校として発展し、永続的に存続していかねばいけないと思っており、今年より来年、来年より再来年と益々教育の質を高め、社会から歓迎される人材の育成を進めてまいりたいと考えております。

卒業生の皆様方には、今後とも、ご支援・ご鞭撻をいただきますよう、ご協力のほど、よろしくお願いたします。

(3)

「卒業される皆さんへ」

ゲーム総合学科

平成26年度卒

梶原 知将

私は平成26年3月に名古屋工学院専門学校ゲーム総合学科4年課程を卒業しました。現在は、在学時に内定した企業の株式会社 DMV.com ラボに勤めており、プログラマーとして主にゲームの開発を行っております。

私自身、まだまだ新人のため、皆様にアドバイス出来るほどの経験はございませんが、社会に出て感じた事を、同じ学校を卒業した者として、皆さんにお伝えすることができればと思います。

弊社では、入社してしばらく研修期間があり、会社が認めるゲームプログラマーとしてのスキルを身に付けていきます。

そのカリキュラムの中には、社会人としてのマナーや、クリエイターとして必要な心得なども学んでいきます。新しい環境では、緊張と不安の連続で、失敗に悩む事もありました。しかし、その度に、先生方からいただいた言葉や、在学中に経験したことを思い出し、前進するこ

とができました。

それからというものは、指導担当者からお褒めの言葉をいただくようになり、現在是有名ゲームタイトルのフロントサブリーダーを任せていただいております。授業で学んだ事、ゼミナールやクラス内での取り組みなど、在学中に経験したことが、自分の糧になっていったと確信しております。

社会に旅立てば、受け身だけでは通用しないことも数多くあると思います。在学中に出来なかったことを後悔し、時には悩む日もあるでしょう。でも、そんな時は先生方からの言葉を思い出してください。学生時代に経験したことや知識は、職種に関係なく、必ず自分の糧になっていくと思います。

自ら進んで新しい事を学び、仲間を作って、より自分を高めたいってください。



ゲーム業界研究セミナーにて講演  
会場：名古屋工学院専門学校

「ITの今と昔」

情報学科

神谷 裕之

「世界はITなしではいられない！」  
このキャッチフレーズは、今年度の募集用パンフレットに使った言葉だ。

私がコンピューターに触れたのは、およそ30数年前。

コンピューターのコの字も知らない、がちがちの文系、いや体育会系人間だった。

「文系の方でも大丈夫！」そんなフレーズが入学の決め手となり、ここで3年間コンピューターについて学んだ。

当時実習で使っていたコンピューターは「M170F」という富士通製の汎用コンピューター。プログラムの入力は、製品名は忘れたが「DES（データエントリシステム）で8インチのフロッピーディスクを使用していた。今の学生達に話すと、フロッピー自体を知らない学生もいる。

在学中に国家資格にも合格し、無事某IT系企業へ就職。電力系銀行系、流通系、証券系のシステム開発に携わった。そのすべてが大型汎用コンピューターによるものであり、もちろん開発規模、金額も相当なものだった。そのころに感じたのは、

「コンピューターの技術は特別なもの」

である。もちろん今もそれに変わりはないが、一般の利用者たちはどう感じているのだろうか。

パソコン、スマートフォン、タブレットなど手軽に手に入るし、その利用者（保持者）も本当に多い。「スマートフォン」と「パソコン（コンピューター）」は別物と考えている人も多いと聞く。

Web技術も相当進み、ネットを使わないことは今ほとんどない。本当に便利な世の中になったものだ。

仕事、娯楽、生活。様々な場面でITは使われている。技術者不足も深刻化していると聞く。

「ウェアラブル端末」

私が子供の頃みていた番組で、そのころ衝撃的だった機器が今は一つずつ実用化されている。学生だった頃「衝突防止システム」というテーマで学科を超えて研究に取り組んでいた学生がいたが、それも今実現している。

「AI」が再注目されているが、これもまた実用化に向かっていっているのだから。

立場の逆転が無い事を期待しながら、ITの進化を今後も見ていきたい。

# 平成27年度 校友会事業経過報告

年月日 事業内容

27・5・16 富山支部役員会 開催

27・6・2 校友会常任役員会 開催

27・6・27 校友会支部長総会 開催

27・6・27 長野支部総会 開催

27・7・4 沖縄支部役員会 開催

27・10・8 学生会同窓会 校友会加入

27・10・8 アマチュア無線クラブ  
OB同窓会 校友会加入

27・10・13 校友会メールマガジン

【かもめ】ルNo.36【配信

27・10・16 静岡支部役員会 開催

27・10・24 学園祭 校友会コーナー運営

27・10・24 学生会同窓会 開催

27・10・31 アマチュア無線クラブ  
OB同窓会開催

27・11・7 沖縄支部総会 開催

坂田・池戸・堀内・小林

27・11・14 静岡支部総会 開催

池戸・堀内・坂下・平石

28・2・27 富山支部総会 開催

村崎

28・2・29 校友会常任役員会 開催

校友会賞審査・会則変更・校友会加入

28・2・29 電波組1981 校友会加入

28・3・4 電波組1981 同窓会 開催

28・3・9 校友会賞 授与

28・3・9 校友会誌『かもめ』  
第57号発刊

28・3・16 校友会誌『かもめ』  
(1422通発送)

## 各支部長

### および支部連絡先

▽東京支部長 板屋越 一機

平成4年 電気工学研究科卒業

・支部担当 松岡 昇

▽大阪支部長 井上 雄三

昭和56年 電気工学科卒業

・支部担当 荒木 俊行

▽三重支部長 瀬野 喜久

平成3年 情報処理学科卒業

・支部担当 森下 啓司

▽富山支部長 島 大地

平成24年 電気工学研究科卒業

・支部担当 村崎 博樹

▽石川支部長 坂本 守

昭和52年 第一部電子工学科卒業

・支部担当 石黒 誠

▽四国支部長 松浦 正昭

昭和34年 第一本科学卒業

・支部担当 高須 真人

▽沖縄支部長 南風原 武則

平成4年 電気工学科卒業

・支部担当 小林 真治

▽静岡支部長 富田 明

昭和53年 電気工学科卒業

・支部担当 坂下 正義

▽長野支部長 市瀬 耀一

平成25年 電気工学研究科卒業

・支部担当 松橋 卓也

☆支部担当連絡先

名古屋工学院専門学校

校友会各支部担当者

所在地 名古屋市熱田区

神宮四丁目7-21

電話 052-681-1311 (代)

## 第32期校友会常任役員

会長	池戸 博行
副会長	岩井 敬典
副会長	松岡 昇
書記	古市 雅邦
会計	平石 義博
幹事長	堀内 豊
幹事	竹下 啓太
幹事	根岸 雅巳
幹事	坂下 正義
幹事	高須 真人
幹事	石原 昭
幹事	松橋 卓也
幹事	梶間 泰
幹事	長谷川和宣
幹事	石黒 誠
幹事	隈元 良一
幹事	神谷 裕之
幹事	村崎 博樹
幹事	谷口 順一
幹事	小林 真治
幹事	田中 和彦
会計監査	井上 茂樹
会計監査	坂田 和義
相談役	倉田 豊行
参与	

(5)

平成27年度 校友会収支決算書（一般会計の部）

収入の部 合計金額 23,281,416 円  
 支出の部 合計金額 23,281,416 円

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	21,383,221	会誌発行費	379,640
校友会活動費	1,856,000	支部結成・維持費	2,336,865
預金利息	3,195	同窓会・結成援助費	161,677
電波学園活動援助金	39,000	援助費	25,000
		講演会費	70,534
		慶弔費	24,767
		備品消耗品費	44,712
		校友会賞費	56,817
		功労賞費	30,050
		ホームページ保守費	162,540
		業務費	185,000
		会長交際費	29,160
		学園祭協賛費	112,809
		予備費	62,640
		次年度繰越金	19,599,205
合計	23,281,416	合計	23,281,416

平成27年度 校友会収支決算書（特別会計の部）

奨学金特別会計

収入の部 合計金額 29,863,604 円  
 支出の部 合計金額 29,863,604 円

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	¥6,084,417	今年度貸付金	¥0
前年度貸付繰越金	¥15,876,500	事務・通信費	¥7,452
一般会計から	¥0	貸付繰越金	¥15,569,000
預金利息	¥2,687	次年度繰越金	¥6,387,152
奨学基金	¥7,900,000	奨学基金	¥7,900,000
合計	¥29,863,604	合計	¥29,863,604

# 専攻は「情報セキュリティ」

## 『連続記録更新中!』

情報系学科の大きな目標の一つに「情報処理技術者試験合格」があります。

基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、各種スペシャリスト試験に加え、今年度より「情報セキュリティマネジメント試験」にもチャレンジしています。

また、平成29年春期試験から、「情報セキュリティスペシャリスト試験」が「情報処理安全確保支援士試験」に変わります。

情報セキュリティの重要性が年々高まっていく中、その知識、技術をもったエンジニアの需要も同様に高まったことを背景に、今年度より「情報セキュリティ学科」を新設し、ますます需要が高まるITエンジニア育成にこれまで以上の取り組みをしていきます。

そんな中、先輩方から受け継いできた「スペシャリスト試験連続合格記録」を今年度も無事達成し、「17年連続」となりました。さらには、ネットワークスペシャリスト試験では、4年連続で東海地区専門学校生合格者の半数以上を達成するなど、「国家試験に強い

工学院を証明することが出来ました。

今年度は、情報処理技術者試験が現行の制度になってから最多数の国家試験合格者を輩出することも出来ました。今後も、この伝統を引き継ぎ、多くの学生が国家資格取得者となるよう学生と共に頑張っていきたいと思っております。(ITJ)

## 『全国も注目』

### 名古屋イチの創作力!

2016年11月、ゲームCG分野では、初めての取り組みとして「ゲーム会社だけの企業説明会」を実施しました。

企業説明会なんて珍しくもない…そう思われるかも知れません。

しかし、これは画期的なことなのです。なぜなら、主に首都圏にあるゲーム会社さんが多数、わざわざ本校ゲームCG分野学生だけのために、駆けつけて下さったからです。

放課後を利用して行われた説明会は、概ね一日2社ずつ。

『アーマードコア』シリーズで世界的に名高いフロム・ソフトウェアさんを皮切りに、14日から24日までに12

社がご来校いただき、会社説明とプログラムやポートフォリオなど作品への評価、そして一部の企業さんは一次試験までも実施していただきました。

また、11月7日には、デイトライトワークスさんによる、特別講演会も実施されました。

同社は、700万ダウンロードを誇る人気スマホゲーム「フェイトGO」の開発・運用元として知られる注目株です。特に交流はなかったのですが、先方からの提案で単独での講演会が実現しました。

ゲームクリエイター養成の専門学校は、全国に約60校。名古屋地区には、6校が存在しています。

この中で本校は、近年大きく存在感を伸ばしています。元々業界には「名古屋の専門学校は力がある!」という評価があったのですが、特に近年、全国レベルのコンテストでの受賞が続いたことで、本校が筆頭の地位に上り詰めたことあると云えるのです。

ライバル校と異なり、テレビCMなど派手なPRは一切行っていない名古屋工学院。ただ、地味で堅実なだけに、工都 名古屋のDNAは濃厚に受け継いでいると云えるでしょう。

移り変わりの激しいゲーム業界ですが、「人が創る」という意味では、創生期から今日まで微動だにしていません。そんな業界の中で名譽ある地位を築いていきたいと思えます。

(備兵隊長)

## 『活躍する支援学生』

学外支援特別実習(高等学校や地域のイベントなどの技術支援)で自主的に活動している学生がいます。

この学生達は、検定試験や国家資格を積極的に取得する意欲も持ち合わせています。

まず、映像音響処理技術者資格認定試験。ビデオ編集や録音技術に関する幅広い知識を必要とします。

また、受験者の可否を判定するものではなく、受験者の今現在の能力レベルを判断することを基本としている試験もあります。AとEのランクがあり、学生はB以上のランクを目指します。サウンドレコーディング技術認定試験とプロツール技術認定試験です。

録音、編集、パソコンを使つてのミキシング、MIDIなどの知識が必要とされます。

さらに、国家資格である第一級陸上特殊無線技士。無線設備の技術操作ができ、これも業界ですぐに役立ちます。

そして、彼らの素晴らしさは、日々のスタジオでの機器の整理整頓、整備作業にも手を抜かないことです。

学校を飛び出している支援活動の経験で真の実力が身についていくのです。

映像音響科にとって最高の人材であり、業界就職をさせることを保証します。間もなく2年生は卒業、そして業界へ。引き続き、学外支援特別実習に参加する学生志願に期待します。

(7)

## 『復活!!』

最近、電気分野に関心を持つている若い世代が減っているそうです。工業高校でも電気科を志願する生徒が減少して四苦八苦されているようです。本校の電気工学科においても、今年度の入学生数が昨年比マイナスを記録しました。何とか来年度は増加してほしいと思っております。

そんな中で今年度の学園祭においては産学連携の一環として中部電気保安協会のブースを出展しました。幅の広い層に電気について関心を持ってもらおうと、本校学生と協会職員の方が連携して運営しました。



中部電気保安協会との産学連携による学園祭の出展ブースの様子

太陽光発電所に使用しているドローンやパネルの洗浄ロボットなどの展示説明を行い、電流イライラ棒で楽しんで頂きました。

体育祭は、昨年に引き続いてドームで行いました。笠寺にある日本ガイシホールです。ドーム初年度は優勝を逃

しましたが、今年度は雪辱戦をものにしました。電気電子学科が優勝しました。



誇らしげにトロフィーを持つ学生とほくそ笑む岩佐、小林 両教員

電験の取得者も今年度は、70名の大会に乗ることができました。これは、10年ぶりのことです。

最近、レコード盤が再び人気を集めているようですが、是非あやかって強竜ドラゴ・・じゃなかった、魅力ある電気になりたいと思います。

(新デンセンマン)

## 『電子・デジタル家電分野の話題』

平成28年度の就職内定状況から説明すると、近年まれにみる世界情勢の不安定要素等の影響も関係をしてか、中々厳しい社会情勢の中、年度内100%を達成できるように頑張っています。それぞれ卒業クラスがあと2〜3名を残すのみです。

今年も、警察庁中部管区警察局、国土交通省大阪航空局、KDDIエンジニアリング(株)、パナソニック コンシ

ューマーマーケティング(株)、日立コンシューマ・マーケティング(株)、(株)堀場テクノサービス、上新電機(株)、等と、目標とする優良企業から多数の学生が内定をいただきました。更に、一部の企業からは、追加求人依頼もいただいています。

次に、超難関国家資格取得の近況です。第一級陸上無線技術士に6名、第二級陸上無線技術士に1名(卒業による科目免除で、合格、電気通信主任技術者(伝送交換主任技術者)に1名が合格と自慢できる結果が出ています。

日々の地道な努力がこの様な結果として出てきました。

最後に、『工事担任者AI・DD総合種』の認定講座です。総務省より認可され、平成12年度から継続する認定講座も今年で17年目に入りました。今年度も、電子情報学科1年生が全員取得を目標に頑張っています。この中には、女子学生が1名います。1年生の9月から翌年3月までのほぼ6ヶ月間の平常授業で、情報通信技術者として是非とも欲しい資格が取得できるようになっているのです。まるで、夢のような話ではありませんか。

例年のように、3月中旬には、合格の目途が立ちそうです。

(平成28年12月記載 デジデジ)

## 『10号館の職人』

10号館には職人がいます。ロボティ

クス創造学科の学生たちです。リモコン操作の2足歩行ロボットの製作に並々ならぬ情熱を注いでいます。

専門学校ロボット競技会の全国大会に出場する他校のロボットは、そのほとんどが市販のキットに手を加えたものであり、昨年度の大大会では自作ロボットでの出場は本校だけでした。

設計にはCADを駆使します。関節の長さが肝だそうで、ボディはアルミ板一枚から膨大な数のパーツを切出し、折曲げてモータを組付みます。

一台分に必要なモータは、最低限の動きで19個、美しくスムーズな動きをさせようとすると26個は必要であり、それらを一つひとつ手作りするので、膨大な手間と時間がかかります。

知らず知らずのうちに加工技術が磨かれ職人となっていきます。

すべてのパーツが揃い、姿勢検出センサなどの電子部品を制御マイコンに接続したら形はひとまず完成です。

組上がったら幾種類もの動きを教え込むティーチングが待っています。

すべての関節が、より人間の動きに近づくまで何度も繰り返し返すのです。

気が遠くなるような作業ですが、バツチリ決まった時の喜びは格別だといえます。

ただそうして拘りぬき、魂を吹き込んで製作したロボットも、精巧さやモーションの美しき、観客からの歓声に酔いしれて、スピード重視の入賞からは遠のいている次第です。(カー吉)

## 【特筆すべき学生】

最近の工学院で特筆する学生を紹介いたします。後輩の頑張りを讃えて下さい。

### ●第21回全国学生カート選手権

#### TIAクラス優勝

#### 機械工学科1年

原田 峻一郎さん

2016年8月21日、日本海に近いスピードパーク新潟で、全国の大学、短大、専門学校 학생たちによる日本一決定戦第21回全国学生カート選手権が開催されました。

この大会は今年度で21回を迎え、原田さんも生まれていなかった時代から始まっており、歴史のある大会へと成長しています。

今回出場したTIAクラスはエンジン形式、シャシー／フレーム、タイヤが決められています。

他のFD・SSクラスはシャシー／フレームが市販品なら自由となっており、車体差があるクラスとなっています。

TIAクラスは車体の実力が同じ条件となるためドライバーの実力がレースを左右し勝敗が決定します。

原田さんはタイムトライアルから予選でもトップタイムをキープし、決勝でポールポジションを獲得しました。

決勝では序盤から独走態勢のまま大学生を振り切り、最後まで快走し、優勝しました。

夢は社会人も含めた全日本大会で優勝すること。このスキルを磨き、将来は自動車開発関係で活躍したいと考えているようです。



ジャパンカート10月号掲載

### ●電験三種

#### 女子学生が複数名合格！

#### 電気工学研究科

古田 梓紗さん  
八澤 智美さん

今年度の第三種電気主任技術者試験で、取得者が71名となり、その中で電気工学研究科の古田さんと八澤さんの両名が完全合格しました。

女子学生の複数名完全合格は、電気工学科始まって以来の快挙です。

古田さんは、三重県立尾鷲高校の普通科を卒業し、八澤さんは愛知県立一

宮商業高校の経理科を卒業しました。両名とも実家が電気工事を営んでおり、電気に興味を持ち入学しました。当初は、全く違う分野の勉強に大変苦労したそうです。

しかしそこは持ち前の粘り強さと、クラスメイトの支えによって着実に実力が付いていきました。

2年次の試験で2科目合格の嬉しさの反面、完全合格出来なかったことに悔しい思いをしました。

その悔しさをバネに不合格だった科目を詳しく分析し、苦手分野を強化するため電験二種の問題も取り入れて実力を付けていきました。

そのお陰で試験直前の予想問題では、安定的に合格点をとることができ見事完全合格を達成しました。

卒業後は、両名とも電気技術者として社会に羽ばたきます。

本校で培った目標に対する取り組みは必ず役に立つはずです。

電気業界はまだまだ男性が多い職場ですが、資格取得によって対等、いや、それ以上の立場で業務を行っているのではと思います。

成長した姿を見るのが今から楽しみで仕方ありません。



八澤智美さん 古田梓紗さん

### ●コンテストW受賞

#### ゲーム総合学科4年

古川 貴士さん

2016年9月17日、古川さんの開発した2つのゲーム作品が、2つのコンテストで、それぞれ賞を獲得するという快挙を成し遂げました。

ひとつは、日本最高峰のアマチュアゲームコンテストである「日本ゲーム大賞アマチュア部門」。

応募総数329作品の中から「FACTORY」が受賞作品として選出されました。

もうひとつは、世界中のインディー・ゲーム作品の集まる「INDIE STORE AWARDS 2016」。

こちらでは、有名クリエイターも多数参加する中、「コラプス」が審査員特別賞を受賞しました。

コンテストで多数の実績を挙げているゲーム関連学科の中でも、同日W受賞は快挙でした。



東京ゲームショウ 授賞式



『部活動を通して校友会活動』

我が空手道部は、昭和36年入学の榊原健治氏が通っていた道場の流派・聖道流で創部、平成28年に創部55周年を迎えた。顧問は、故福田孝夫先生、当初は唐手と書いた時代。その後、間宮美和先生そして、倉田豊行先生（電波通信学科・昭和45年卒）と引き継がれ、流派名は、糸東流となった。

現在は、倉田先生の退職に伴い、休部中である。

昭和43年入学の中川光俊氏（電子工学科・昭和45年卒）が、中心となって空手道部OB会が発足。活動休止中であつたが、創部55周年を迎え、倉田先生の呼びかけで、昭和48年入学の小竹重好氏（電子工学科・昭和50年卒）がご尽力され、再度、新空手道部OB会が発足。



この度、天野悟氏（電子工学科・昭和50年卒）が会長に就任、新生空手道部OB会並びに校友会OB同窓会として発足、校友会活動に参加することになった。

この新OB会は、平成28年10月22日の学園祭期間中に3号館5階の特設

道場に集合し、その後、親睦会を開催して、心を一つにして糾合、決定され、OB会が息を吹き返した。

今後、毎年、学園祭を中心に会合と親睦会を開催して、末永く継続する決意である。

この、空手道部OB同窓会は、現在のところ、正会員18名、特別会員1名が在籍。今後、空手道部出身者が400余名。さらに、より多くの会員を糾合するつもりである。

また、専任の先生および在校生の方々に休部中の部活動を復活していただき、校友会活動に積極的に参加、さらなる発展を期したい。皆様のご協力を切にお願い致したい。

OB諸氏もこの機会に部活動が復活することを熱望いたしております。

空手道部でよく使われる【押忍（オス）】（押し忍ぶ）は、拓殖大学空手道部から生まれた言葉と聞く。今や世界では、OSS（オス）として、公用語となり、2020年には、オリンピックの正式種目として採用され、テレビ等でその型が頻繁に放映されている。

今後とも、校友会の一員として、さらなる発展を期して、より一層貢献したいと思っている。

最後に、我が糸東流の開祖である摩文仁賢和先生の武歌を紹介したい。『何事も 打ち忘れたり ひたすらに 武の島さして 漕ぐが 楽しい』

文責 倉田 豊行 押忍

『名古屋工学院専門学校 産業技術後援会』

産業技術後援会

「名産会概要」

本会の前身は、昭和45年、中部地方における電気・電子業界全般に関する技術者育成のための支援機関として規範的かつ広域な産学共同の実を挙げることを目的として発足した「中部電気産業育英会」である。

工学院及び電波学園と関係する幅広い企業との一層の産学連携や会員相互間の親睦の事業を行う為、平成25年5月に名古屋工学院専門学校産業技術後援会（名産会）と名称を変更して現在に至っている。

現在、会員数は194社。活動内容としては、業界研究・企業研究セミナーの実施、知識・技術の習得が顕著な学生への奨励賞の授与など、専門学校の教育を支援するための諸活動を展開している。

今後より充実した組織づくりと時宜を得た産学連携強化を進め、優秀な人材の確保と会員相互間の親睦や啓発の事業を行っていく。

「目的」

本会は、名古屋工学院専門学校が行う教育方針に賛同し、中部地区における電気、家電・電子・通信、情報処理・IT、マルチメディア・映像音響、ロボット・制御技術・機械・CADなど産業技術全般に関する技術者育成及び学生に就業観・勤労観を持って「人間

力」を意識したキャリアデザインできる人材育成のための支援機関とし、規範的かつ広域な産学協同の実を挙げることを目的としている。

「名産会設立理由」

企業が求める人材像と学生の希望や資質が合わないミスマッチを解決する為、産学連携を強化して、学生が働きたいのある仕事を見つけられるように学生と企業との接する機会を増やし、「専門技術を持ちコミュニケーション能力、行動力、自己啓発、チャレンジ精神を兼ね備えた人材」を名古屋工学院専門学校から輩出させ会員企業で活躍していただく。



名古屋工学院専門学校産業技術後援会 第4回定期総会 平成 28. 11. 22



業界研究セミナー 平成 28. 12. 15・16

# 平成 28 年度 母校のおもなできごと





景気回復の兆しが見えてきた平成 28 年度。求人状況も昨年度と比べ好調であり、工学院生が先輩方同様に活躍できる場が多くありました。その場に立てるよう、在校生達は、資格取得、技術習得に日々努力を重ねてきました。今年度のおもな出来事をまとめてみましたので、卒業生の皆さんも、学生時代を思い出しながらご覧ください。

7月10日 CG—ARTS検定  
 7月17日 3次元CAD利用技術者試験  
 7月23日 KLab(株)特別講演会  
 第二種電気工事士上期技能試験  
 7月25日～29日 前期末試験  
 7月29日 昼間部・夜間部終業  
 (夏期休暇) 7月30日～9月11日  
 8月6日 クリプトン・フューチャー・メディア(株)  
 特別講演会  
 8月7日 (株)スクウェア・エニックス特別講演会  
 エネルギー管理士試験  
 Ebe-1 GP SUZUKA 参戦  
 8月21日 沖縄スカイツアー (体験入学)  
 8月24日～9月8日 第一級陸上特殊無線技術士講習会  
 77名取得  
 8月22日 夜間部始業  
 9月3日 第一種、二種電気主任技術者試験 (一次試験)  
 9月4日 第三種電気主任技術者試験  
 第31回マイクロマウス中部地区初級者大会  
 マイクロマウスラジック競技 優勝  
 ロボティクス創造学科4年 加藤 涼  
 マイクロマウスラジック競技 特別賞  
 ロボティクス創造学科3年 竹内 秀哉  
 ホップリット競技ワンメイクの部 準優勝  
 ロボティクス創造学科1年 佐藤 翔生



家電エンジニア・アドバイザー試験  
 Pro Tools 技術者認定試験

9月7日 家電製品アドバイザー試験  
 9月15日～18日 東京ゲームショー2016出展  
 見学ツアー実施  
 9月17日 日本ゲーム大賞  
 アマチュア部門 優秀賞  
 ゲーム総合学科4年 古川 貴史  
 9月25日 公益財団法人 中山隼雄科学文化財団による  
 研究成果発表会 学生作品発表

4月8日 電波学園合同入学式  
  
 4月11日 始業  
 4月17日 春期情報処理技術者試験  
 4月22日 第1回県人会  
 4月30日 エピック・ゲームズ・ジャパン  
 合同会社特別講演会  
 5月14日 東海地区教育懇談会 (卒業クラス)  
 5月18日 第1回・企業説明会  
 5月19日 第2回・企業説明会  
  
 5月20日 寮避難訓練  
 5月22日 工事担任者試験  
 5月27日 献血運動  
 5月28日 寮ボウリング大会  
 6月2日 第3回・企業説明会  
 6月3日 第4回・企業説明会  
 6月4日 堀川まつりポスター採用  
 ゲームCG学科2年 中島 瑞希  
  
 6月5日 第二種電気工事士上期筆記試験  
 映像音響処理技術者資格認定試験  
 6月19日 第1・2級CAD利用技術者試験  
 6月25日 色彩検定  
 校友会支部長総会  
  
 7月2日 教育懇談会/県人会担当教員が  
 各地区へ赴き保護者との面談。  
 7/2 静岡・松本、 7/3 浜松・飯田、  
 7/9 石垣・宮古・熊野・富山、  
 7/10 那覇、伊勢、長浜、  
 7/16 高山・金沢、 7/17 郡上・福井  
 7月3日 サウンドレコーディング 技術認定試験  
 7月5日～7月8日 第一・ニ級陸上無線技術士試験  
 7月9日 (株)サムライピクチャーズ特別講演

(11)

12月4日 第一種電気工事士 技能試験

12月13日 メイクアップセミナー



12月22日 全国専門学校ロボット競技会  
優秀メカニック賞

ロボティクス創造学科 馬場 遼  
鈴木 寛



12月23日～1月10日 昼間部・夜間部冬期休暇

12月24日 電気機器組立て技能士  
(シーケンス作業) 技能試験

1月5日～7日 第4回スキー・スノボツアー  
北志賀竜王スキー場



1月13日 第2回県人会

1月17日～20日 第一級、二級陸上無線技術士試験

1月19日 産業技術学科卒業研究発表会

1月22日 第2級、3級シーケンス制御技能検定学科試験

1月25日～31日 卒業試験

2月3日 情報学科模擬面接会

2月5日 ゲーム・CG分野 卒業・進級作品展

2月6日 電子情報研究科 卒業研究発表会

2月6日～10日 進級試験

2月14日～15日 メディア学部卒業研究発表会

3月6日 家電製品エンジニア・アドバイザー試験  
(AV情報家電・生活家電)

3月9日 茶話会  
家電製品アドバイザー試験  
(AV情報家電・生活家電)  
校友会賞授与式

3月10日 卒業式

3月14日 終業

3月15,16日 学園総合企業説明会

3月19日 第21回熱田の森ロボット競技会

10月1日 第二種電気工事士下期筆記試験

10月2日 第一種電気工事士 筆記試験

10月5日・6日 ゲーム・CG分野  
前期末特別制作展示・発表会

10月16日 秋期情報処理技術者試験

10月22日～23日 第45回名学祭

テーマ

「ink ～あなたのパレットは  
何色に染まっていますか～」

でじっく☆フェス



10月23日 第35回マイクロマウス中部地区大会  
ロボソフト競技ワンメイクの部 準優勝  
ロボティクス創造学科1年 佐藤 翔生  
ロボソフト競技ワンメイクの部 優勝  
ロボティクス創造学科 梅本 篤

10月23日 日本マイクロソフト(株) 特別講演会

10月29日 東海地区教育懇談会 (進級クラス)

10月30日 第31回全日本学生マイクロマウス大会  
5位 ロボティクス創造学科 竹内 秀哉  
6位 ロボティクス創造学科 加藤 涼

11月10日 体育祭 (日本ガイシホール)



優勝 電気・電子学科 準優勝 メディア学科

11月12日 InfoLens, Inc 特別講演会

11月14日～24日 ゲーム・CG分野企業研究会

11月19日～20日 第37回全日本マイクロマウス大会



11月20日 機械設計技術者試験  
第一種・第二種電気主任技術者試験(二次試験)

11月27日 デジタル技術検定試験

12月3日 第二種電気工事士下期技能試験

12月3日～4日 デジタルコンテンツ博覧会  
GAIRA “ペライチ” チャレンジ

GAIRA 賞

ゲームサイエンス学科 佐藤勇斗

日本一ソフトウェア賞

ゲームCG学科 伊藤早織

インティ・クリエイツ賞

ゲームサイエンス学科 中村元樹

## 『ゆいまーる』の気持ち

沖縄支部担当

小林 真治

私が沖縄支部を担当するようになって約10年。依然として地名や言葉など判らない事が多々あり、一人前にはほど遠いと痛感している。

一言に沖縄といっても、本島だけでなく宮古島や石垣島などの離島もある。本島から石垣島までは、400 km以上離れており、東京大阪間の距離に相当するというから驚きである。

この10年の間に、沖縄担当者として、何度も沖縄を訪問させていただく機会があった。

私は、担当するまで沖縄に行った事がなく、当初は驚きの連続であった。

その驚きの第一は鉄道がないこと。

那覇空港から首里方面に向けモノレール（ゆいレール）は存在するが、鉄道がなく踏切も存在しない。

第二に、タクシーやレンタカーが多いこと。空港周辺の駐車場は、モータープールのようなものである。平成26年には、過去最多の706万人の観光客が訪れている。

第三は、基地の存在である。空が割

れるかと思うほどの爆音と共に戦闘機が飛び立つ様子は、今でも振り向いてしまうほどだ。

そして第四は『あたたかさ』である。南国のため気温が高い『暖かい』は当然であるが、それ以上に人が『あたたかい』のだ。

初対面の人や、突然入った店の人も、とにかく気さくに明るく穏やかに接してくれる。



平成 27 年 11 月 7 日 合同支部総会

沖縄には『いちやれば ちよーどー』という諺がある。

これは一度でも出会えば、兄妹のように仲が良くなるという意味である。この言葉からも県民性がうかがえ、私

が沖縄を好きになった理由でもある。沖縄支部は、700名を超える卒業生が巣立っており、支部総会でも多くの卒業生が参加している。現役からご退職された方々までと年齢層は広い。

そこで感じるのは、本校での学生生活で経験されたことが、今の原動力となっており、本校の将来のことを真剣に考えていることだ。

また、年配の方々が若い卒業生に対して、親身になって相談に乗っている様子は、とても印象的である。

沖縄には、『ゆいまーる』というお互いを思いやる心、助け合い精神がある。校友会活動は、これらの精神を活かし、先輩後輩の関係を築くことができるだけでなく、親身なサポートも行える素晴らしい組織だと改めて感じた。

私は『ゆいまーる』の気持ちを常に忘れず、支部会員の関係を深める橋渡しの存在となり、先輩の方々から本校の将来や校友会の発展に対して安心してもらえるような活動を続けていきたいと考えている。

## 編集後記

国際化、グローバル化という言葉に触れるようになってから久しいが、今世界中が、ユーチューブ、ツイッターなどで、善きにせよ、悪しきにせよ、一夜にして人生が変わるといふほどの物凄い情報社会になってしまっている。日本のアニメ文化が海外で成長したり、渋谷の交差点が来日者の観光スポットになったり。また、“爆買い”なる言葉が一段落し、今では地方の自然文化に触れるために訪れる観光客が多くなっているという。

19年ぶりという日本人横綱誕生に、相撲ファンやスモジョでなくとも心が弾む。スポーツや音楽芸能、料理、テクノロジーの世界など多くの日本人が海外で活躍、修行をしている。

逆に日本の歴史・文化に深く関心を持つて来日する外国人も多い。

例えば戦国武将について研究し、関ヶ原などを訪ね歩く人もいると聞く。筆者の通う剣道の道場にも、外国人の姿がある。欧州のIT系企業に勤め、1ヶ月ほどの短期出張でも重い防具を担いでセントレアに降り立つ。

日本の道場で竹刀を振る立ち居振る舞いは、誠に謙虚で礼儀正しい。

カモメのように高い空から見ると、世界観を持ちたいものだ。(花鳥)